

【事例⑦】 間接交流から「無理なくできる直接交流」へ

事例の概要

【知的障害特別支援学校小学部3年生 Gさん】

Gさんの保護者は、Gさんの体調面に不安があったり、直接交流をした際の地域指定校の様子に見通しがもてなかったりしたため、間接交流のお便り交換のみを行っていました。

そのため、本事例では、地域指定校の特別支援教育コーディネーターが、毎月お便り交換のために来校するGさんの保護者へ、学校行事への参加を呼びかけました。

また、直接交流についての保護者の不安を解消できるように、地域指定校と特別支援学校が連携し、継続して保護者の相談を受けるようにしました。

その結果、Gさんの保護者は、地域指定校の学校行事への参加に見通しをもつことができ、運動会の見学に行くことを了承しました。

運動会見学は、Gさんの体調面などに配慮されたものであったため、Gさんは安心して見学することができました。その後、Gさんは他の学校行事にも安心して参加できたことで、次年度から直接交流を希望することにつながりました。

交流活動への期待

【地域指定校の児童への期待】

- 運動会を見学に来たGさんのことを知り、関わりをもってほしい。

【Gさんと保護者への期待】

- 地域指定校の運動会を安心して見学し、直接交流の希望につなげてほしい。

期待する姿を引き出すための工夫

特別支援学校では

■ 参加しやすい行事の提案

地域指定校の教員と連携を密に行い、Gさんが参加しやすい学校行事を地域指定校へ提案しました。

また、地域指定校へGさんへの配慮事項を伝えました。

小学校では

■ 保護者への呼びかけ

Gさんと保護者がお便り交換のために来校した際、特別支援教育コーディネーターが学校行事への見学や参加の呼びかけを継続して行いました。

また、そのとき、Gさんと保護者に校内を案内し、学校の様子を伝えました。

■ 保護者の不安の解消

Gさんの保護者からの直接交流についての相談に、特別支援学校と連携して対応しました。

交流の様子

■ 間接交流時の様子

- Gさんの保護者は、地域指定校の特別支援教育コーディネーターから運動会の見学の誘いを受けたとき、戸惑いを感じていました。しかし、特別支援教育コーディネーターが、Gさんの保護者の不安を一つ一つ聞き、特別支援学校の学級担任と連携して答えることで、Gさんの保護者から、「運動会を見学したいと思います」という返事をいただきました。

■ 学校行事参加時の様子

- Gさんと保護者が、地域指定校の運動会の見学に行くと、地域指定校の児童は、初めて会うGさんのところへ来て、名前や住んでいる場所などの質問をしました。そのとき、Gさんや保護者はその質問にとても嬉しそうに答えていました。
- 運動会の見学後は、地域指定校PTA主催のサツマイモ掘り大会へ、Gさんは家族全員で参加しました。運動会で知り合った地域指定校の児童は、すぐにGさんのところへやって来て、話しかけてくれました。

交流の成果

本交流事例では、無理なく直接交流を実施したことにより、以下のような成果がありました。

- (1) Gさんと地域指定校の児童や教員が学校行事を通じて顔見知りとなったため、Gさんが地域指定校へ来校したときには、気軽に声をかけてくれるようになりました。
- (2) 地域指定校の特別支援教育コーディネーターが特別支援学校へ来校し、Gさんの学校生活の様子を見学したことにより、Gさんについての理解を深めることができました。
- (3) Gさんが地域指定校の学校行事に参加した後、特別支援学校の学級担任がGさんの保護者から感想を聞き取り、次回につなげられるようにしました。これにより、Gさんが地域指定校の学校行事により安心して参加できるようになりました。
- (4) Gさんの保護者は学校行事の見学や参加を通じて安心し、次年度から直接交流を希望するようになりました。
- (5) Gさんの保護者からは、以下のような感想が聞かれました。
 - ・ 地域指定校の先生から学校の行事へのお誘いをいただき、少しずつ小学校を身近に感じることができました。それに、(先生方が) 親身に相談に乗ってくださったので、安心して運動会の見学ができました。



この事例から、直接交流に不安がある保護者へ丁寧に説明を行い、学校行事への見学などから無理なく進めていくことで、直接交流の希望につなげていけることが分かりました。

【事例⑧】 障害者スポーツ「ボッチャ」を通じた直接交流

障害者スポーツ「ボッチャ」とは

重度脳性麻痺者もしくは同程度の四肢重度機能障害者のために、ヨーロッパで生まれた障害者スポーツの代表的な種目です。障害のある人だけでなく、だれもが楽しむことができるスポーツです。ジャックボールと呼ばれる白い的球に自身のボール（赤または青）をどれだけ近づけられるかを競います。

交流活動への期待

【地域指定校の児童への期待】

- 「ボッチャ」を通じて、Hさんや特別支援学校のことを知ってほしい。

【Hさんへの期待】

- 普段経験しているスポーツを通じて、楽しく交流をしてほしい。

期待する姿を引き出すための工夫

特別支援学校では

■ 「ボッチャ」実施の提案と実施

交流活動として、地域指定校へ「ボッチャ」の実施を提案しました。実施する際は、特別支援教育コーディネーターが同行し、「ボッチャ」の説明を行い、実施しました。

小学校では

■ 学級担任による「ボッチャ」の実施

交流時以外でも「ボッチャ」を行えるように、特別支援学校の教員と連携して、その実施の仕方を学びました。

交流の様子

- 当日は、Hさんが取り組みやすいように、得点の書かれたシートを床に敷き、ボールを転がしての的をねらう「ターゲットボッチャ」を行いました。
- 初めてボッチャに取り組む地域指定校の児童は、Hさんがボールを転がす姿に注目していました。また、自分がボールを転がすときも、その難しさに驚きの声が出ました。

交流の成果

本交流事例では、障害者スポーツ「ボッチャ」を実施したことにより、以下のような成果がありました。

- (1) Hさんは、普段取り組んでいる「ボッチャ」を通じて、地域指定校の児童と一緒に楽しく活動することができました。
- (2) 地域指定校の児童が、「ボッチャ」についての理解を深めることとともに、地域指定校でも「ボッチャ」を行うようになりました。

今後、東京パラリンピックに向けて、誰もが楽しめる障害者スポーツを取り入れた交流活動の実施が期待されます。

